

「2013 国立台湾大学サマープログラム 参加報告書」

京都大学工学部4年 後藤佳紀

まずはじめに、このような素晴らしいプログラムに参加させていただいたことに深く感謝申し上げます。

さて、まずはプログラムの内容についてですが、「台湾大学サマープログラム」は大きく分けて二つのクラスから成り立っていました。一つは Chinese Class、もう一つは Exproing Taiwan です。私にとっては、どちらのクラスもとても有意義なものとなりました。まず Chinese Class とは、その名の通り中国語の授業です。初日にレベル分けテストを受け、5つのレベルに分けて授業を行うため、自分の能力にあったレベルで中国語を勉強することができました。また講師はとても丁寧で、スピードやホームワークの量も最適であるように感じました。次に Exproing Taiwan とは、台湾の文化について学ぶクラスで、週一回の座学講義と、体験型講義、また様々な博物館やお寺などへのフィールドトリップから成り立ちます。すべての企画がとても興味深いものとなっており、非常に楽しみながら台湾の文化を学ぶことができました。また Exproing Taiwan は、最終プレゼン、エッセイを含め基本的に英語で行われるため、英語力の向上にも役立ちます。総じて私はこのプログラムについて大満足でしたので、120点満点をつけたいです。そのため、成果としましては、中国語学習はもちろんのこと、英語やプレゼンテーション能力なども向上させることができました。まず中国語についてですが、私は挨拶程度のレベルでこのプログラムに参加しましたが、終了時には、中国語で買い物ができる程度に、また知っている単語の範囲で、言いたいことを文章で発言できるようになりました。また、Exproing Taiwan のクラスや普段の生活を様々な国籍をもつ友人たちと、英語を用いて行う中で、中国語と同等、またはそれ以上に英語でのコミュニケーションの能力も向上させることができました。さらには、英語での最終エッセイや最終プレゼンといったように、初めて英語を公式にアウトプットする機会を得て、特にプレゼンでは、十分な準備をして挑むことで、プレゼン自体の訓練にもなりました。また、このプログラムで最も感動したことは、台湾大学生からなるアドバイザーグループのこのプログラムに関するコミットの仕方です。彼らは私たち留学生がこのプログラムを最大限に楽しめるように、本気で考え、準備し、全力をつくして私たちをもてなしてくれました。その姿をみて正直私は驚いたと共に、彼らのその真摯さと、人を楽しませることを心から楽しんでいる姿に強く尊敬を覚えました。そのため、このプログラムを通して台湾のことがとても好きになり、将来台湾で仕事がしたいと考えるようになりました。私は来年から総合商社で働きますが、台湾のために働くことができればな、と今は考えています。